

# 平成20年度 事業報告書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

学校法人大阪電気通信大学

# 学校法人大阪電気通信大学 平成20年度 事業報告書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

## 1 法人の概要

### 1 設置する学校・学部・学科等 (平成21年3月31日現在)

#### (1) 大阪電気通信大学

大学院工学研究科

博士課程 (前期・後期)

総合電子工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻

大学院医療福祉工学研究科

博士課程 (前期・後期)

医療福祉工学専攻

大学院総合情報学研究科

博士課程 (前期・後期)

コンピュータサイエンス専攻

大学院総合情報学研究科

修士課程

デジタルアート・アニメーション学専攻、デジタルゲーム学専攻

工学部

電子工学科、応用化学科、電子機械工学科、機械工学科、環境技術学科、基礎理工学科、通信工学科(※)、光システム工学科(※)

工学部第2部

電子工学科(※)、機械工学科(※)

医療福祉工学部

医療福祉工学科、理学療法学科、健康スポーツ科学科

情報通信工学部

情報工学科、通信工学科、光・エレクトロニクス学科(※)

総合情報学部

デジタルアート・アニメーション学科、デジタルゲーム学科、メディアコンピュータシステム学科、情報工学科(※)

※改組転換による学生募集停止

#### (2) 大阪電気通信大学高等学校

普通科

電子工業科

## 2 学部・学科等の定員、在籍学生数の状況（平成20年5月1日現在）

### （1）大阪電気通信大学

学部（研究科）	入学定員	入学者数	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
工学研究科（修士課程）	100	84	200	84	80			164
工学研究科（博士後期課程）	16	0	48	0	2	4		6
医療福祉工学研究科（修士課程）	10	9	20	9	9			18
医療福祉工学研究科（博士後期課程）	5	2	10	2	2			4
総合情報学研究科（修士課程）	30	17	60	18	23			41
総合情報学研究科（博士後期課程）	5	0	10	0	2			2
大 学 院 計	166	112	348	113	118	4		235
工 学 部 （工学部第1部）	450	479	1,700	528	491	478	432	1,929
工学部第2部	—	—	80	0	2	20	69	91
医療福祉工学部	190	218	650	230	184	164	161	739
情報通信工学部	240	251	1,260	297	346	324	342	1,309
総合情報学部	330	334	1,290	390	369	392	391	1,542
学 部 計	1210	1,282	4,980	1,445	1,392	1,378	1,395	5,610
合 計	1376	1,394	5,328	1,558	1,510	1,382	1,395	5,845

### （2）大阪電気通信大学短期大学部

学 科	入学定員	入学者数	収容定員	1年次	2年次	合計
電子情報学科	—	—	—	0	2	2

### （3）大阪電気通信大学高等学校

学 科	募集人数	入学者数	1年次	2年次	3年次	合計
普通科	160	160	160	112	129	401
電子工業科	160	203	207	141	198	546
合 計	320	363	367	253	327	947

### 3 役員・教職員の人数（平成21年3月31日現在）

#### (1) 役員

理事 16 人（うち、理事長1人、副理事長1人）  
 監事 2 人

#### (2) 教員

##### 大阪電気通信大学

	専任				非常勤
	教授	准教授	講師	計	
工学部	42	16	8	66	101
工学部第2部	0	2	0	2	8
医療福祉工学部	16	9	4	29	65
情報通信工学部	16	8	9	33	54
総合情報学部	18	14	8	40	38
計	92	49	29	170	266

##### 大阪電気通信大学高等学校

専任	非常勤
教諭	
49	28

#### (3) 職員

##### 大阪電気通信大学

区分	人数
職員	85
嘱託職員	18
計	103

##### 大阪電気通信大学高等学校

区分	人数
職員	4

## 2 事業の概要

### (1) 平成20年度の事業の概要

平成18年度からの寝屋川初町学舎再開発事業の一環として、新学生ホール建築に引き続き新教育棟が平成20年10月に完成しました。

21世紀における新しい教育、研究体制を確立し、これからも本学の特色を最大限にいかした斬新な改革を鋭意検討し、実行して行くことで将来とも魅力ある学園にするよう図ります。

### (2) 平成20年度の子な事業の内容

#### イ、教育研究体制の充実・整備関係

##### 大学関係

教育研究体制の充実・整備を図るべく文部科学省に設置の届出を実施し、平成21年4月から開設しております。

金融経済学部「アセット・マネジメント学科（入学定員80名）」（改組転換による）

#### ロ、教育研究活動関係

##### 大学関係

##### ①戦略的大学連携支援事業

・平成20年度文部科学省大学改革推進等補助金「戦略的大学連携支援事業」に本学を含む関西の5つの私立・国立大学による申請『広域大学連携による「臨床医工学・情報学」高度人材育成システムの構築』が選定されました。

##### ②特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）

・文部科学省が、大学・短大の優れた教育に補助金を重点配分する「特色ある大学教育支援プログラム」の「教育方法の工夫改善を主とする取り組み」に、本学の「企業熟練技術者を活用した産学連携工学教育」が選定されました。平成20年度総事業費は25,279千円です。

##### ③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム

・文部科学省が、社会人の再就職やキャリアアップ等に資する優れた実践的教育への取組を推進する事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に、本学の「運動指導者のスキルアップ講座」が選定されました。平成20年度総事業費は5,950千円です。（受託事業）

##### ④サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業（S P P）

・文部科学省が次代を担う若者への理数教育の充実に関する施策の一環として、科学技術振興機構を通して実施する平成20年度「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業（講座型学習活動）」に4件採択されました。

##### ⑤地域との交流

・寝屋川キャンパスにて、子どもから大人まで、サイエンスに親しみ、テクノロジーを身近に感じてもらえるイベント「テクノフェア in ねやがわ」を開催し、4,500名もの参加があり、ものづくりの体験やサイエンスの楽しさを地域の方々に知ってもらいました。

・組み込みコンピュータ技術（ET, Embedded Technology）について、「見て」「聞いて」「触って」楽しみながら知ってもらうイベント「ET×ロボット」をET×ロボット実行委員会と共催で実施しました。

・四條畷市民総合センターで開催された「第4回なわてふれあい商工まつり」に、総合情報学部デジタルゲーム学科が参加し、地元企業・大学研究機関の展示コーナーへ出展しました。

## ⑥産学官連携事業

- ・資産運用業務に関する実践的講座の開設に関し、本大学とJPモルガン・アセット・マネジメント株式会社、中央三井信託銀行株式会社で協力合意の協定を行ないました。
- ・健康に関する人材育成と機器開発の分野で、本大学と株式会社コナミスポーツ&ライフと産学連携を実施しました。
- ・即戦力教育に力を入れるため、企業との連携講座を積極的に取り入れ、工学部電気電子工学科に「Panasonic 講座（パナソニック株式会社）」、「SANYO 講座（三洋電機株式会社）」、「きんでん講座（株式会社きんでん）」の開設に3社と合意しました。
- ・関西文化学術研究都市6大学連携「市民公開講座2008」において、アロマセラピーについての講演「香りの力～アロマセラピーのホントの話～」を行ないました。
- ・第6回産学官連携推進会議（内閣府、日本経済団体連合会など主催）に、3研究室が「大阪電気通信大学は健康と環境を科学します」をテーマに出展しました。

## ⑦国際交流

- ・中国国家教育部が指定する重点大学である江南大学（9学部・学生数約3万人）と本大学との間でアニメーションおよびデジタルゲーム産業を支える人材育成を目的とし締結した教育プログラムによる第1期留学生（第2年次編入）を平成21年度から受け入れます。
- ・ハリウッドと協力して映像技術で活躍し、人材の養成で有名なシェリダン大学に今年度は、北米トップクラスのトロント大学も加わり、交換留学生プログラムによる授業やホームステイで交流を行いました。
- ・韓国湖南大学と学生の現場体験を通して専門知識の修得と日韓の交流を深めることを目的に短期留学生を受け入れました。

## ⑧補助金・受託事業

- ・科学研究費補助金

研究課題「ナノ位相トモグラフィー走査型透過電子顕微鏡の開発」（事業費90,900千円）など文部科学省助成の科学研究費補助金は、採択件数25件で事業費総額は132,300千円です。

- ・受託調査研究

研究課題「ナノ位相トモグラフィー走査型透過電子顕微鏡の開発」（事業費90,900千円）など文部科学省助成の科学研究費補助金は、採択件数25件で事業費総額は132,300千円です。

## ⑨その他

- ・ドラマ制作

総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科の学生が中心となって制作したテレビドラマ第二弾「弘恵の道しるべ」がテレビ大阪で放送されました。

- ・自由工房

「ものづくり」に関心をもつ学生の課外活動を多面的に支援するために設けられた自由工房では自由工房運営委員会にて重点プロジェクトを決定し活動しています。

レスキューロボットプロジェクトの「救命ゴリラ」は、「レスキューロボットコンテスト」で「消防庁長官賞」を獲得しました。ロボット相撲では、「第20回全日本ロボット相撲大会」への出場を果たし、第20回記念「最多出場賞（団体）」を受賞しました。

- ・臨床工学技士

医療福祉工学部医療福祉工学科卒業時に受験した臨床工学技士国家試験に35名受験し、35名全員が合格した。

## 高校関係

### ①eラーニング授業の導入

- ・普通科では、任天堂DSを利用したeラーニング授業の導入のため無線LAN工事等を実施しました。また、DS95台を補充し、複数クラスで同時に授業ができるようになりました

## ハ、教育研究環境整備関係

### 大学関係

#### 主な施設事業

平成19年度より建築しておりました、寝屋川キャンパスの体育館跡地へのエデュケーションセンター建築工事が完了しました。延べ床面積は約1万6100㎡で7階建、建築事業費は3,436,309千円です。

### 高 校

#### 主な施設事業

守口学舎C号館空調更新工事（19,841千円）、その他C号館（南側）屋上防水工事など実施しました。

## 3 財務の概要

学校法人は、決算に関する書類として、毎会計年度ごとに資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表（以下「主要3表」という）の計算書類、事業報告書及び財産目録を作成しなければなりません。

### 主要3表

#### ①資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容と当該会計年度の支払資金に収入及び支出のてん末を明らかにするために作成される書類です。

#### ②消費収支計算書

当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容と均衡の状態を明らかにするために作成される書類です。

#### ③貸借対照表

日々の取引の結果に基づいて、年度末における財産の状態を明らかにするために作成される書類です。

### 事業報告書

学校法人の当該年度の概況を説明する書類です。

### 財産目録

一定時点における学校法人の資産と負債について、個別的に価格を付して記載した明細表をいいます。

## 過去5年間の推移

### 消費収支状況の推移

消費収入の部	(単位 100 万円)				
	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度
学生生徒納付金	7,940	8,293	8,272	8,080	7,969
手数料	218	202	143	127	128
寄付金	44	55	42	62	51
補助金	1,010	1,089	1,217	1,236	1,184

資産運用収入	154	189	269	293	159
資産売却差額	11	26	89	125	15
事業収入	183	282	221	265	101
雑収入	192	603	602	589	537
帰属収入合計	<b>9,752</b>	<b>10,739</b>	<b>10,855</b>	<b>10,777</b>	<b>10,144</b>
基本金組入額合計	△2,003	△517	△1,013	△1,082	△2,214
消費収入合計	<b>7,749</b>	<b>10,222</b>	<b>9,842</b>	<b>9,695</b>	<b>7,930</b>

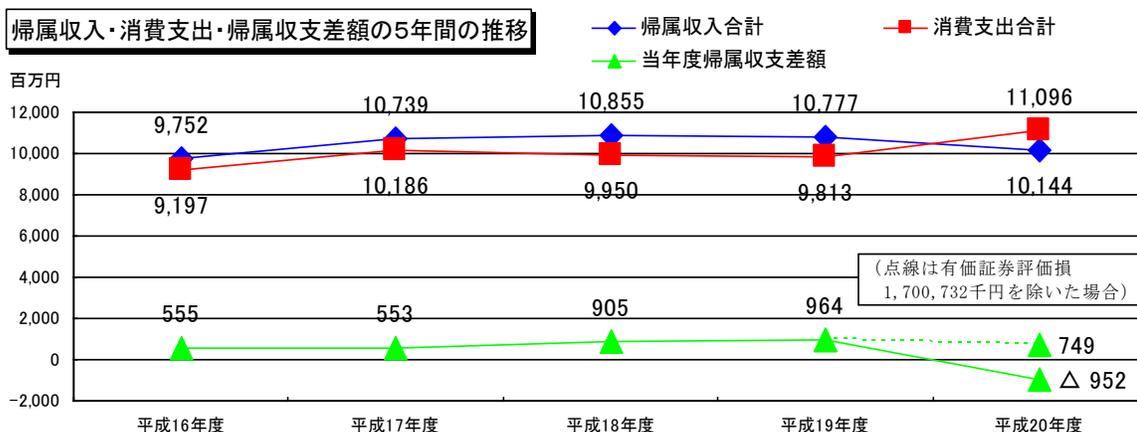
消費支出の部

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
人件費	4,827	5,929	5,680	5,486	5,094
教育研究経費	3,321	3,330	3,543	3,468	3,434
管理経費	823	628	667	674	753
借入金利息	15	11	26	39	52
その他支出	221	288	34	146	1,763
消費支出合計	<b>9,197</b>	<b>10,186</b>	<b>9,950</b>	<b>9,813</b>	<b>11,096</b>
当期消費収支超過額	<b>△ 1,448</b>	<b>36</b>	<b>△108</b>	<b>△ 118</b>	<b>△3,166</b>

(注 1)消費収支計算の結果を表す当期消費収支超過額は、当年度における消費収入と消費支出の均衡状況を表します。学校法人は、学校を維持し、良質な教育研究活動を永続的に行うことを目的として、長期的な収支均衡を求めるもので、単年度の収支均衡まで求めるものではありません。

(注 2)平成20年度には、米国に端を発した金融恐慌と世界同時不況による株価の暴落及び円高により、有価証券評価損（投資信託・ユーロ債）1,701百万円を計上しました。

なお、これらの有価証券は、長期保有目的のものであり、今後の教育研究活動及び経営計画に一切影響を及ぼすものではありません。



財政状況の推移（貸借対照表）

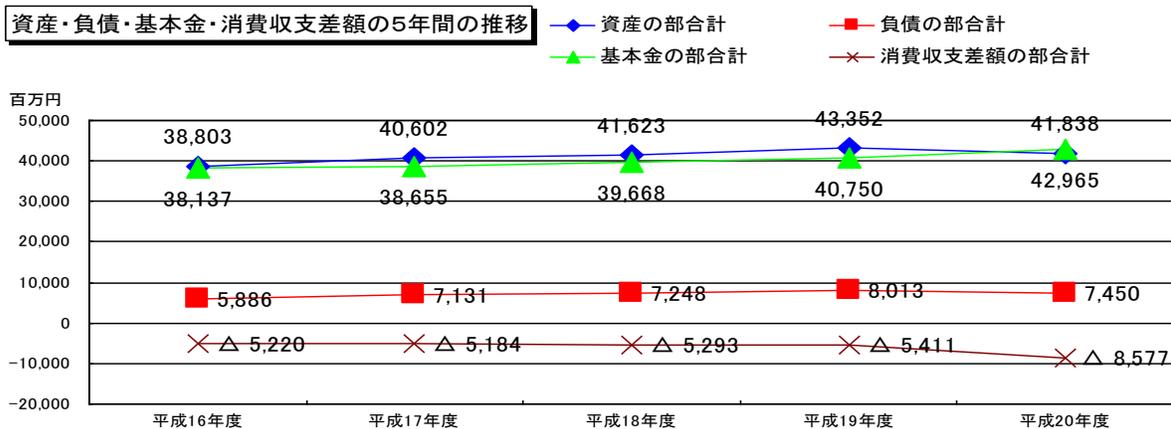
(単位 100 万円)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
固定資産	34,068	35,324	36,579	38,273	36,867
（有形固定資産）	26,310	27,021	27,861	29,101	30,520
（その他の固定資産）	7,758	8,303	8,718	9,172	6,347

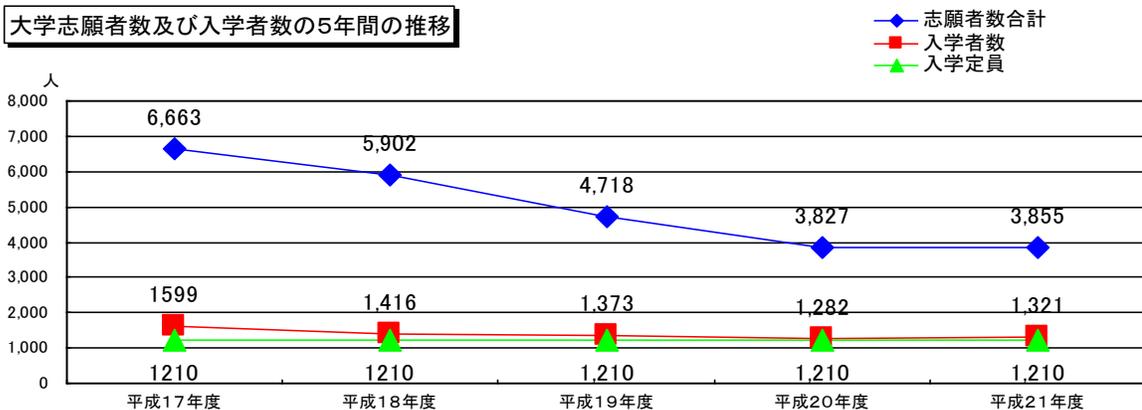
流動資産	4,735	5,278	5,044	5,079	4,971
資産の部合計	38,803	40,602	41,623	43,352	41,838
負債	5,886	7,131	7,248	8,013	7,450
（固定負債）	2,782	3,676	4,190	5,042	4,782
（流動負債）	3,104	3,455	3,058	2,971	2,668
基本金	38,137	38,655	39,668	40,750	42,965
翌年度繰越消費収支差額	△ 5,220	△ 5,184	△ 5,293	△ 5,411	△ 8,577
負債・基本金・消費収支差額合計	38,803	40,602	41,623	43,352	41,838

(注) 基本金は、学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入から組み入れた金額です。

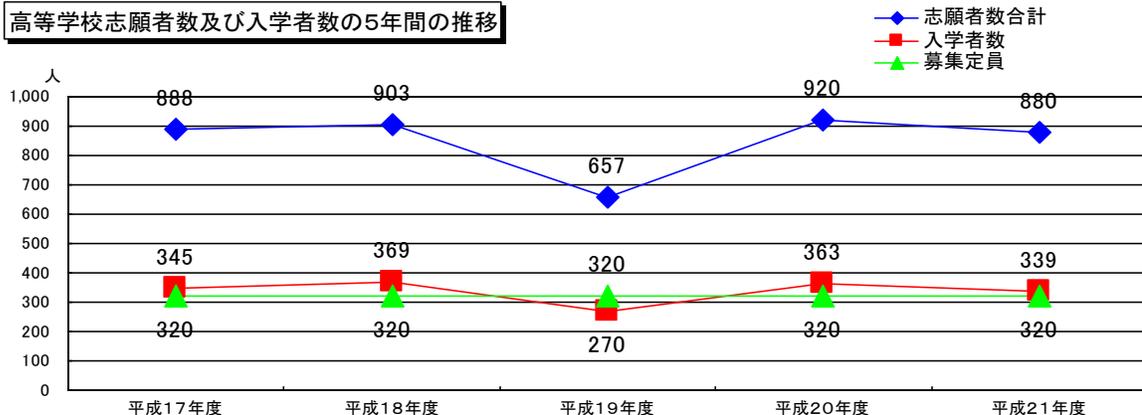
資産・負債・基本金・消費収支差額の5年間の推移



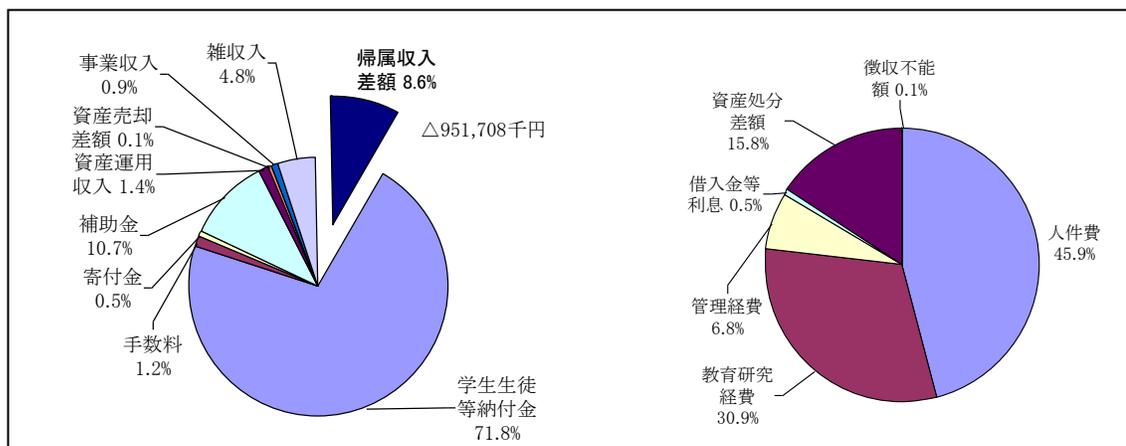
大学志願者数及び入学者数の5年間の推移



高等学校志願者数及び入学者数の5年間の推移



本学における平成 20 年度決算は、  
**学園の経営成績をあらわす消費収支計算書からみて、**  
 帰属収入および消費支出の内訳



(注) 有価証券評価損を除いた場合は、帰属収入差額は 749,024 千円となります。

## (1)消費収入の部

### ①学生生徒納付金

高校では生徒数が増加したものの、大学は学生数が減少し、短大は平成 20 年度より廃止したことにより全体で、前年度より 110,705 千円の減収となりました。

### ②寄付金

一般寄付金、企業からの奨学寄附金などが、28,826 千円、現物寄附は、22,024 千円です。

### ③補助金

大学では、経常費補助金で、本学の補助対象事業が終了したこと等により、補助金全体で前年度より 32,928 千円の減収となりました。

また高校でも、生徒数が増加したにもかかわらず、経常費補助金が減少したことなどで、補助金全体で前年度比 18,274 千円の減収となりました。

### ④資産運用収入

主なものは、預金、有価証券、特定資産の受取利息・配当金収入で前年度より 134,609 千円減少しました。

### ⑤帰属収入

平成 20 年度法人全体の帰属収入（負債にならない収入）の合計は、10,144,193 千円であり、前年度より 632,619 千円減少しました。

### ⑥基本金組入額

基本金の組入れは、当年度に自己資金で取得した固定資産の額と、当年度除却した固定資産の額の差額を組入れ、借入及び未払金で取得した固定資産の額は、借入金返済又は、未払金の支払の年度に組入れることとなっています。

## (2)消費支出の部

①人件費

前年度に比べ退職者が減ったことなどで、前年度より、392,167 千円減少しました。

②教育研究経費・管理経費

施設・設備などの減価償却費 1,092,302 千円も含め、教育・管理経費合わせて、4,187,181 千円となりました。

③借入金等利息

長期借入金の増加で、前年度より 12,655 千円増加しました。

④資産処分差額

機器備品・図書などの廃棄による資産処分差額並びに退職給与引当金特定資産・施設拡充引当金特定資産の評価差額により前年度より 1,615,362 円増加しました。

⑤消費収支差額

当期の消費収支差額は予算では 1,781,680 千円の消費支出超過額を計上していましたが、退職給与引当金特定資産及び施設拡充引当金特定資産の評価差額の増加などにより、3,166,056 千円の消費支出超過となりました。

学園の財政状態をあらわす貸借対照表からみて、

(1) 資産の部

①固定資産

○有形固定資産

寝屋川学舎エデュケーションセンター新築(平成 20 年度支払分)、などにより、前年度より 1,419,112 千円増加しました。

○その他の固定資産

将来の施設設備等の拡充のための引当特定資産の減少などにより前年度より、2,824,466 千円減少しました。

②流動資産

有価証券の減少などにより前年度より、109,077 千円減少しました。

(2) 負債の部

他人資金である負債の総額は、前年度より 562,723 千円減少し、7,450,474 千円となりました。

以 上